

## MCR（限定コース受講生）の対談日記

再生医学研究所臓器再建応用分野

本多 通孝

脳病態生理学講座精神医学

小野 美樹

### <自己紹介>

**本多通孝**：外科医を7年やってから再生研の博士課程に入学しました。基礎研究の成果を臨床応用（TR的なこと）したいと思って受講しました。

**小野美樹**：臨床系博士課程1年。小児科を5年やって精神科5年目で臨床歴は10年あるけど、研究の経験はなく、臨床研究がしたいと思い受講しました。

### <4月> 4月は授業が始まったばかりで、まだまだ手探りでしたね。

**本多**：私は必修科目しか取りませんでした。必修以外に、医療倫理や医療政策もとっておけばよかったなど。時間に都合がつく限りは色々授業をとってみたいですね。

**小野**：私は、MCRの先輩のアドバイスで医療統計の実習をとりましたよ。「これは絶対取った方がいいっ！」て、勧められたので。よかったですよ。

### <5、6月> 連休明けから一気に忙しくなりましたね。

**本多**：飲み会とか（笑）？みんなの情報交換の場として月1回の飲み会をやることにしたんですね。ただこの頃、課題やグループワークがたくさん入ってきて、日程調整とかが大変になってきましたね。毎日の授業で新しい知識が入ってきて、自分の考えもどんどん変わっていくから、この時期に研究テーマを固定化することは実際には無理だと思いますね。大雑把に広くテーマを設定しておいて、勉強に専念すればいいと思った。ただ専科生はプロマネがあるから中々そうもいかないと思いますけど・・・。

**小野**：私もそう思います。授業と課題をこなすのに精いっぱい。週末はほとんど統計のレポートをするのに費やしていました。でも、研究のお作法を学ぶ、研究の基礎の一番大事なことをしていたと、振り返ると分かります。これが分からないとクリニカルクエスションからリサーチクエスションに落とせないと思いました。

### <7月> 授業が終わりに近づく少し自信がついてきたような？

**本多**：今思えば、まだまだだったけど、基本的な知識が整理されて楽しくなってきます。

**小野**：この頃は、課題が6つぐらい同時進行で、焦ったり落ち込んだり。そんな時に先生方やMCR生のアドバイスに助けられました。辛かったけど、本当に毎日が発見と進歩で充実した日々でした。試験の後で祇園祭りにもみんなで行ったし・・・（あっ、内緒だったね）。

### <8、9月> 夏休みということになっていますがどうでしょうか。

**本多**：自分の時間が取れるようになるので、いままで考えたことを整理しながら、臨床に戻ったらどういう研究をやるか、一発で終わらず、継続的にできるような研究テーマを模索しましたね。将来的なことも含めて、人生設計を考えるいい機会になりました。そこで考えたことを、授業で習った先生方にアポイントをとって面談をしつつ、軌道修正しながら研究テーマを深めていったという感じですね。

小野：本多さんは、もともと研究の経験があるから、次のステップという感じでしたよね。この頃、医療統計の大発表会が大変でした。どのテーマも難しいけど、参考資料は無駄もなく的確な文献ばかりで有意義でしたが、提出〆切日 15 分前に、飛行機の中で仕上げた思い出も……。自分のテーマについて考え出したのは、9 月に入ってからでした。

#### <10 月> 後期に入りますが必修の授業は基本的にはないんですね。

本多：通年制のプロマネですから。私は医療統計の授業だけ聴講しましたが、ほかはどんな科目がお勧めですか？小野さま。

小野：えっ？なんで敬語なの？私は、行動学、社会疫学Ⅱ、EBM 研究論、統計の講義と実習。週の前半は授業で、後半は研究のための自習日にあてました。こんなふうには講義をじっくり受けられるチャンスは今後ないと思って。

本多：後期もいくつか授業取った方が良かったかなと思っています。あ、そうそう課外授業としてデータベースソフトの使い方を樋之津先生にレクチャーして頂いたりしましたね。そういう学生の希望をまとめて、特別授業を企画するというのもいいですよ。

小野：課外授業は、いい勉強になりました。この頃、やっと私のテーマが決まり、ここからリサーチクエスションの組み立て作業が始まりました。後期は授業や課題は少なくなるかわりに、自分の研究と向き合う、別のしんどさがありましたね。

#### <11、12 月> そろそろ大詰めですね。

本多：後期の発表は英語で Discussion でしたね。やっぱりこれを目標に前期から英語は勉強しておいた方がいいですね。英会話の勉強なんて臨床しているとなかなかできないので学生のうちに何とかしないとイケませんね。

小野：同感です。私は英語力ゼロでしたので、聞き取りに難渋しましたが、前期の臨床コミュニケーションの授業などで英語に対するハードルはかなり下がりましたよ。

本多：私は個人的には忘年会のネタ仕込みが一番楽しかったかな。まあ趣味にもある程度時間を割けるということでも……。

小野：本多さんの宴会芸は芸術の域に達し、伝説になってますもんね(笑)。私は、まだ日々、リサーチクエスションとの戦いでした。今まで一番勉強したかなあ。でも、自分は本当に研究することが好きなことにも気が付きました。

#### <1、2 月> いよいよ受講生の発表ですが……。

小野：自分の発表と試験が重なり、かなりしんどかったです。でも、4 月には論文もろくに読めなかった自分が一つの研究計画を作り上げるまでになったんだと実感。発表は本当に緊張しました。発表のあと、1 時間ほど MCR 生から、いろんなアドバイスをもらいました。MCR 生みんなと仲良くできて良かったです。

本多：最後に謝恩会的なパーティーが開かれました。本当に 1 年、たくさんの先生方、MCR の仲間にお世話になりました。このつながりを大切に、今後は臨床に励みたいと思います。

小野：先生方や仲間に感謝しています。これからの研究者として生きてゆく中でかけがえない 1 年だったと思います。将来、このメンバーで共同研究したいです。